



CAGLIERO 11

カリエロ



149 2021年 5月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



会員の皆さん、 友人の皆さん、

私たちは「二段変速」の世界に生きています。私たちサレジオ会は、一方で「富が生み出され」ながら、もう一方では「不平等が生じている」と感じます。私たちのユースセンターは支援を差し伸べなければと感じていますが、しばしば十分な手段がありません(人材、資金)。私たちは若者の「取りなし手」として、ますます徹底した誠実な取り組みを進めなければなりません。一人ひとりの若者のうちに、キリストご自身が私たちを待っておられることを思い出しながら。

そのことを確信するなら、プロジェクトの資金を調達する手段も見いだせるでしょう。「サレジオの経済」が本来の働きをしているか確かめるには、この世における「神の足跡」を人々に示すことができたかどうかを確認する必要があります。その最も大切なことを!

皆さんに、
復活の喜びを申し上げます!

■ 財務顧問
ジャン=ポール・ミュラー, SDB

宣教師とお金



双葉マークの宣教師:「お金には気をつけなくちゃ。お金は「悪魔の糞」と言うでしょう!」
ベテラン宣教師:「そのとおり。宣教地の肥料にしなくちゃ。」

人は修道誓願や司祭叙階によって身体的に何か変化するわけではありません。ほかのすべての人間と同じように、宣教師も必要なものがあります。宣教師が福音を宣べ伝える人々にも必要なものがありますが、しばしば基本的な必要さえ満たす手段がありません。物的**手段・資源**は宣教師にとって**なくてはならない**ものです。

その手段・資源を得る源泉はいくつかあります。

1. 宣教師はお金を**稼ぐ**ことができます。事業所の土地、建物、その他の財を生産的に用いることによって、あるいは自らの働きの報酬として(学校での報酬、印税など)。
2. 政府による教育、医療、福祉などの**プロジェクト**の受益者になるため行政と交渉する。
3. ほとんどの**会社**、企業は「社会にお返しをする」必要を感じており、宣教師をも支援してくれるかもしれません。
4. 多くの**基金**、トラスト、その他の団体が有意義なプロジェクトに寄付を行います。中には宗教活動に寄付を行う団体もあります。
5. もう一つの源泉は、**寄付**や教会の**献金**です。定期的なもの、特別献金、特定の活動への寄付。

良い宣教師は、上記の各カテゴリーに**さまざまな資金源**を持っています。その源泉については**見極め**なければなりません。宣教師よりもビジネスマンであるかのような印象を与えること、秘跡や祈りを売り買いしているように見なされること、あるいは汚れたお金の寄付、倫理的に問題のある活動に関わる企業からの寄付を受けることを避けます。

透明性を保ち、寄贈者の**意向を尊重**すること、資金を合法的に使うことは非常に重要です。宣教師が情熱をもって使命に取り組み、最も貧しい人々に仕え、経済的で透明性があり、有能であるなら、周りに認められ、資金は宣教師のもとに集まります。宣教師にとってお金は使命の実現に必要な手段です。しかし、あくまで手段にすぎません。それが**宣教の真の目標**に取って代わることは決してありません。真の目標は、ご自分の子らへの神の愛を映し出すことです。

■ サレジオ会宣教地連帯支援
ジョージ・メナムバランビル神父, SDB

振り返りと 分かち合いのために

- 私は生活のどの面を変え、より経済的なものにできるだろうか?
- 他者の益となるよう、私に任せられたお金をどのように使っているだろうか?



私は楽観的です きっと行き着けるでしょう……



デュドネさん、なぜ東アジアに行きたいのですか？
そのミッションのためにどのような準備をしていますか？

実は自分の宣教地として私は東アジアを選びませんでしたし、夢にも思ったことはありませんでした。2020年8月6日、主の御変容の日任命を受けたとき、私がそこへ行くことを主が望んでおられるのだと心の中で自分に言いました。私は祈り、ミッションをおとめマリアと聖ルイジ・ヴェルシリア、聖カリスト・カラヴァリオにゆだねました。諸国の民 ad gentes へのサレジオのミッションのため、家族、国、アフリカを後にする霊的、心理的な準備をしました。東アジアについてわずかなことしか知らなかったため、うまく受け入れられるだろうかと思いました。言語は学ぶのが最も難しいものだろうとわかっていました。正直に言うと心配でした。その間、英語の基礎を練習しはじめました。派遣先では英語も使われていると知っていたからです。

ご家族はどのような反応でしたか？

私はカトリックの両親のもとに生まれ、二人とも健在です。6人兄弟の5番目です。女3人、男3人で、それぞれ小さな家庭をもっています。東アジアに行くことになったと伝えると、両親と兄弟の最初の反応は、「どうしてそんな遠くにあなたを送るの？」というものでした。私は皮肉っぽく言いました。「遠いって誰から？」より近くキリストに従うなら、距離は関係なくなります。ただ私のために祈ってほしいと家族には言いました。

あなたは宣教グループの豊かな活動経験がありますね。
それはどのようなものでしたか？

宣教グループは数名の若いキリスト者から成り、人々へ遣わされるキリストの委託に積極的に献身します。私は初期養成中、コンゴのいくつかの宣教グループに参加しました。カンセブラ、ウヴィラ、ゴマ(シャシャ)で。どのグループでも、人々に近く寄り添うこと、特にそれを最も必要とする人々に寄り添うことを学びました。また、何年も前に宣教に赴いたほかのサレジオ会員の宣教体験の豊かさも発見できました。これらのグループは、宣教のまなざしを育むよう多くの人を助けることができます。



デュドネ・ムロンゴイ, SDB

コンゴ民主共和国、ルブンバシ生まれ。子どものころにサレジオ会員と出会い、FMAの学校に通ったこともある。23歳でアフリカ中央管区(AFC)のサレジオ会員として初誓願を宣立。

現在、**コンゴ民主共和国**にとどまり、初期養成を受けている。大学の専攻は哲学、教育学。第151回宣教派遣の一員として、**東アジア**に派遣される任命を受けている。

フォーラム



グローバルな貧困

世界の9.2%、**6億8900万人**が極度の貧困の中にあります。107の発展途上国に暮らす**13億人**が複合的貧困の状態にあります。

極度の貧困 — 1日**\$1.90**(€1.60)以下の暮らしと定義されます(2020年 世界銀行)。

絶対的な貧困 — 栄養、衣服、住居の最低限の必要をまかなえないこと。

相対的貧困 — 世帯の収入がその国の平均収入の50%あるいは60%以下。

複合的貧困 — 電気、清潔な飲み水が無い、家族の中に6年の学校教育を修了した人がいない。貧困は、必ずしも収入の低さに限られません。

5月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

金融の世界

南アフリカ、レソト、エスワティニで、
資金の公正な分配と規制が行われますように。

金融の責任を担う人々が、金融の分野に規律をもたせ、市民をその危険から守るため、
各国政府と協力するよう、祈りましょう。

| 教皇フランシスコの祈りの意向 |

アフリカの
ために

